

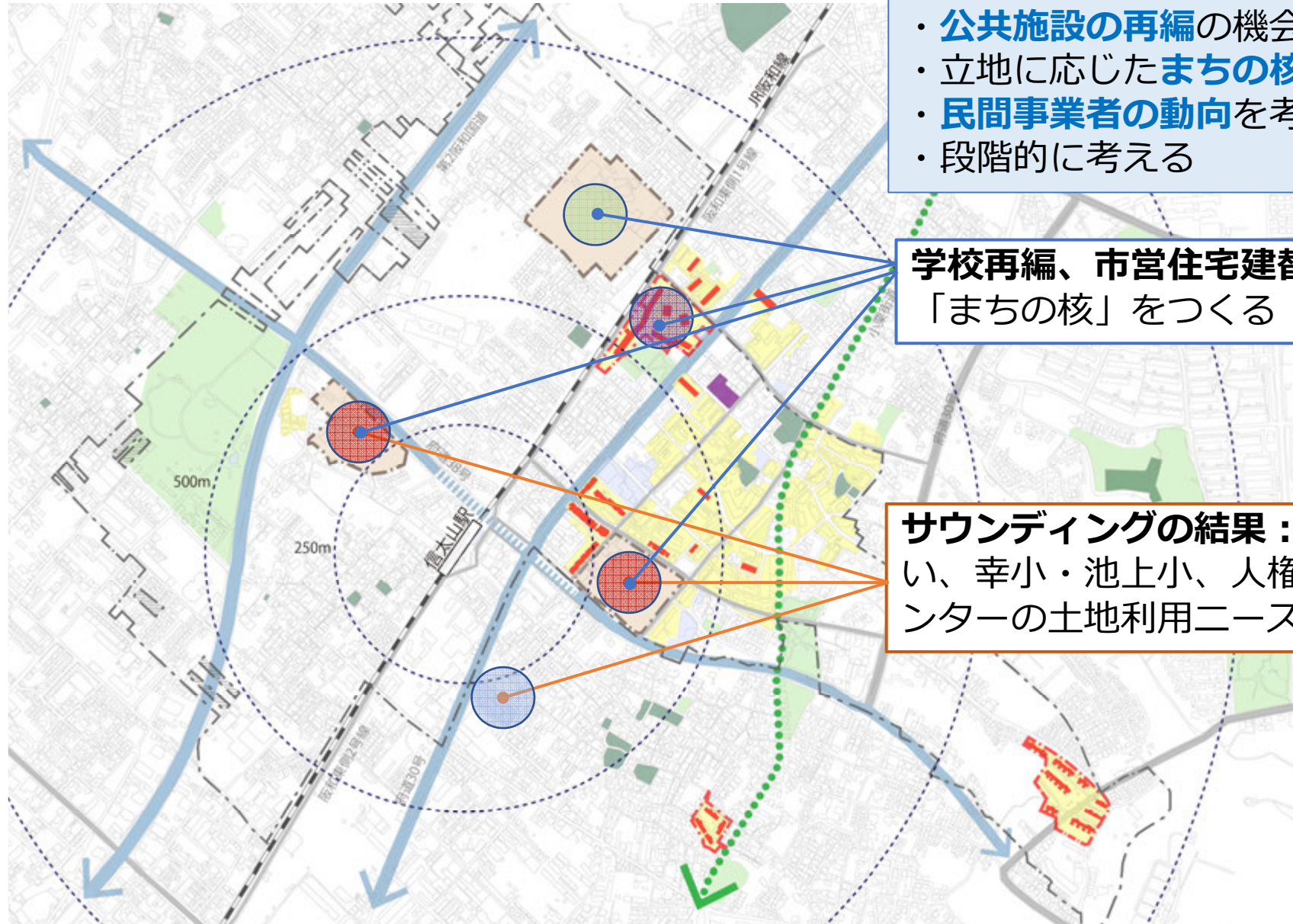
「まちの核」となる 多世代が住む・交流する複合拠点について

議論のためのたたき台

1. 将来のまちの姿（機能の配置等） ～考える視点とイメージ～

（検討会議（3/28）配布資料 ダイジェスト版）

※議論のため用意したたたき台です



まちの姿を考える視点

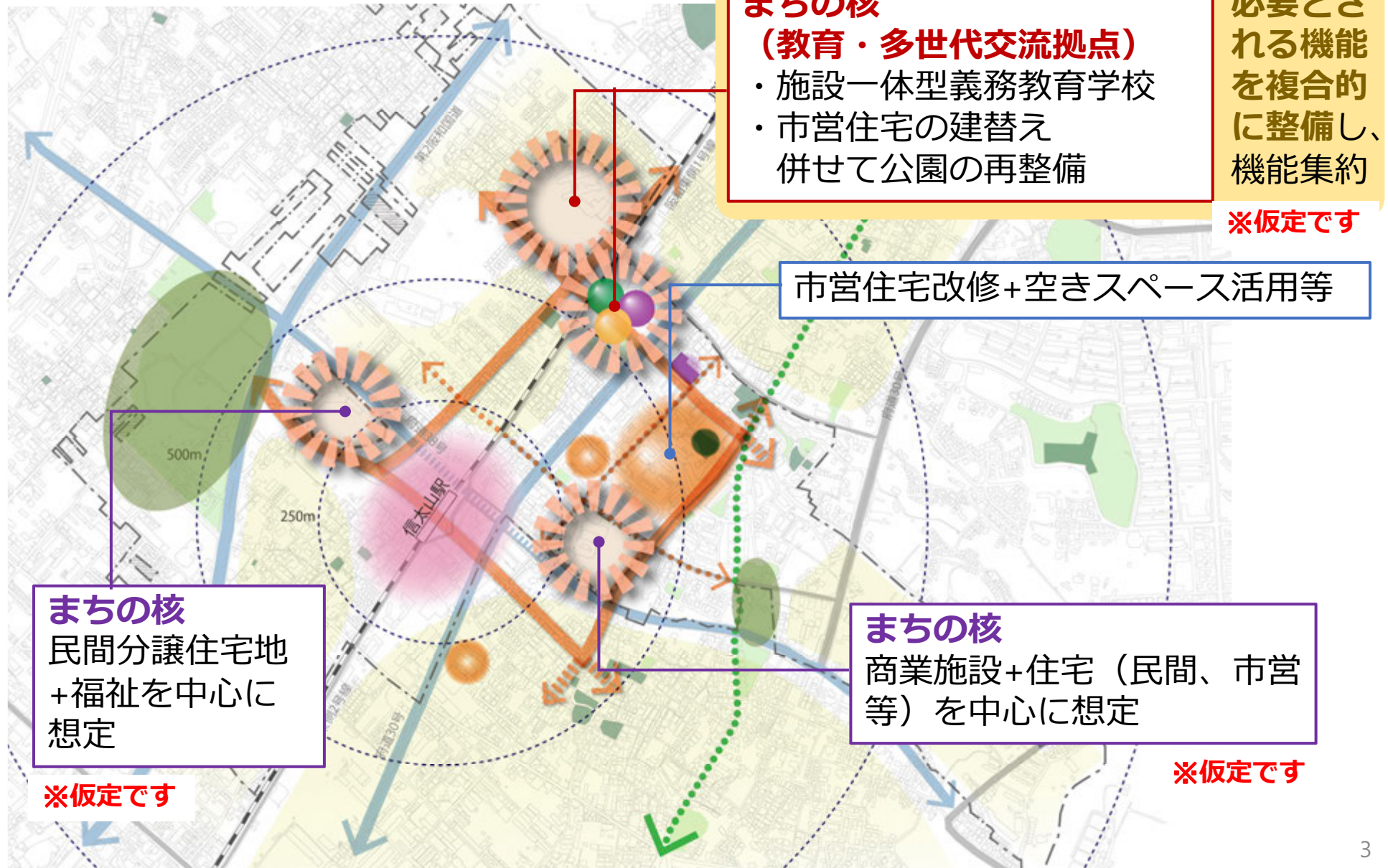
- ・ **公共施設の再編**の機会を活かす
- ・ 立地に応じた**まちの核**をつくる
- ・ **民間事業者の動向**を考慮
- ・ 段階的に考える

学校再編、市営住宅建替を機に
「まちの核」をつくる

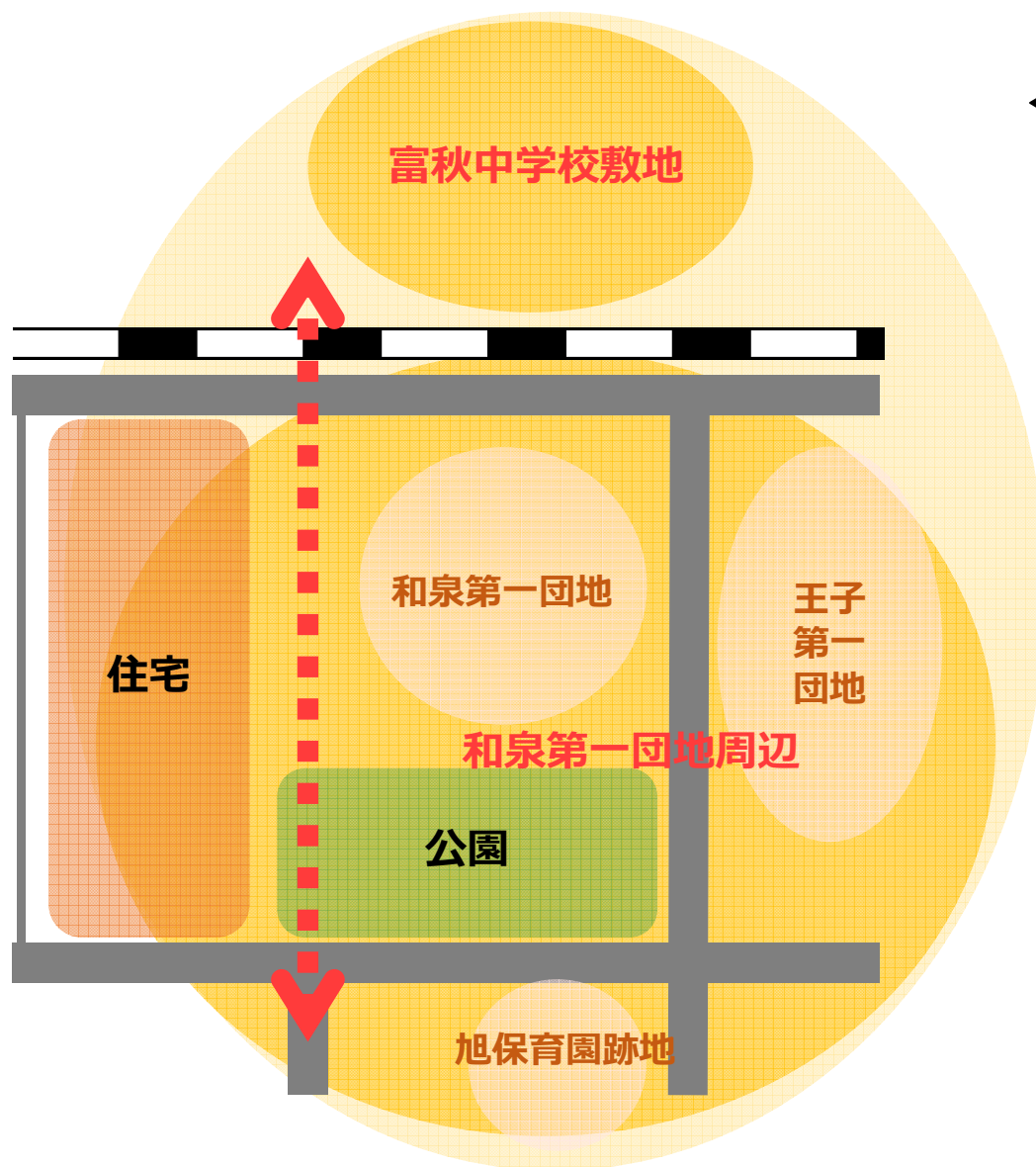
サウンディングの結果：駅に近い、幸小・池上小、人権文化センターの土地利用ニーズが高い

1. 将来のまちの姿（機能の配置等） ～考える視点とイメージ～ （検討会議（3/28）配布資料 ダイジェスト版）

まちの姿のイメージ ※あくまでイメージです



2. 「まちの核」 （教育・多世代交流拠点） 整備の考え方



<考え方>

- ①地域の中心（へそ）に
“和泉第一団地周辺”と
“富秋中学校敷地”の
2つの「まちの核」

※施設一体型義務教育学校（小中一貫校）となった場合の仮定です

- ②和泉第一団地周辺は、
建替用地（和泉第一・王子第一）
+ 更地（旭保育園跡地）を活用

※住宅・公園の位置は例です

3. 前回部会（2/27）のふりかえり

<このまちに必要な生活機能>

- ①居場所（いつでも、だれでも使える） …多目的スペースとパブリックスペース
- ②図書館、勉強しやすい場所（家ではリビングが勉強に最適）
- ③相談・サロン機能（解決できる、支えてくれる、やりがいがある）
- ④高齢者のための介護施設、医療施設など
- （⑤働く場 … 通勤距離を短く）
- ⑥日常購買、飲食など＋駐車場
- ⑦観光資源
- ⑧子どもがボール遊びもできる公園

<サービス・施設のつくり方>

- ①コンパクトで多機能
- ②地域で運営
- ③みんなが自然に交流
（心のバリアフリー、関わりやすい）
- ④継続できる仕組み
- ⑤安全に

3. 前回部会（2/27）のふりかえり

各班のまとめ資料
をみてください

4. 多世代交流拠点に入る機能のイメージ（各班まとめ）

1 班



交流・カフェ機能

相談 お茶 食べる 助ける

福祉機能

歌う 話す 健康づくり

集会機能

すこやかカレッジ 地域活動

読書・学習機能

読書 勉強

子育て機能

預ける 見守る 育てる 学童保育

ひろば機能

雨でも遊べる

2 班



交流・カフェ機能

相談 お茶 遊ぶ 集まる こども食堂 配食

読書・学習機能

読書 勉強 映画上映会

子育て機能

預ける 見守る

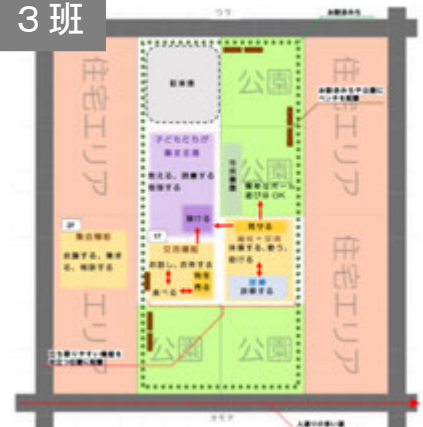
ひろば機能

コンサート 催し

診療所機能

通う 診察する

3 班



交流機能

相談 お茶 食べる 物売る

福祉機能

歌う 体操 健康づくり

集会機能

会議 集まる 相談

子どもの集い場機能

預ける 見守る 教える 読書 勉強

市民農園

育てる

診療所機能

通う 診察する

4. 多世代交流拠点に入る機能のイメージ（各班まとめ）

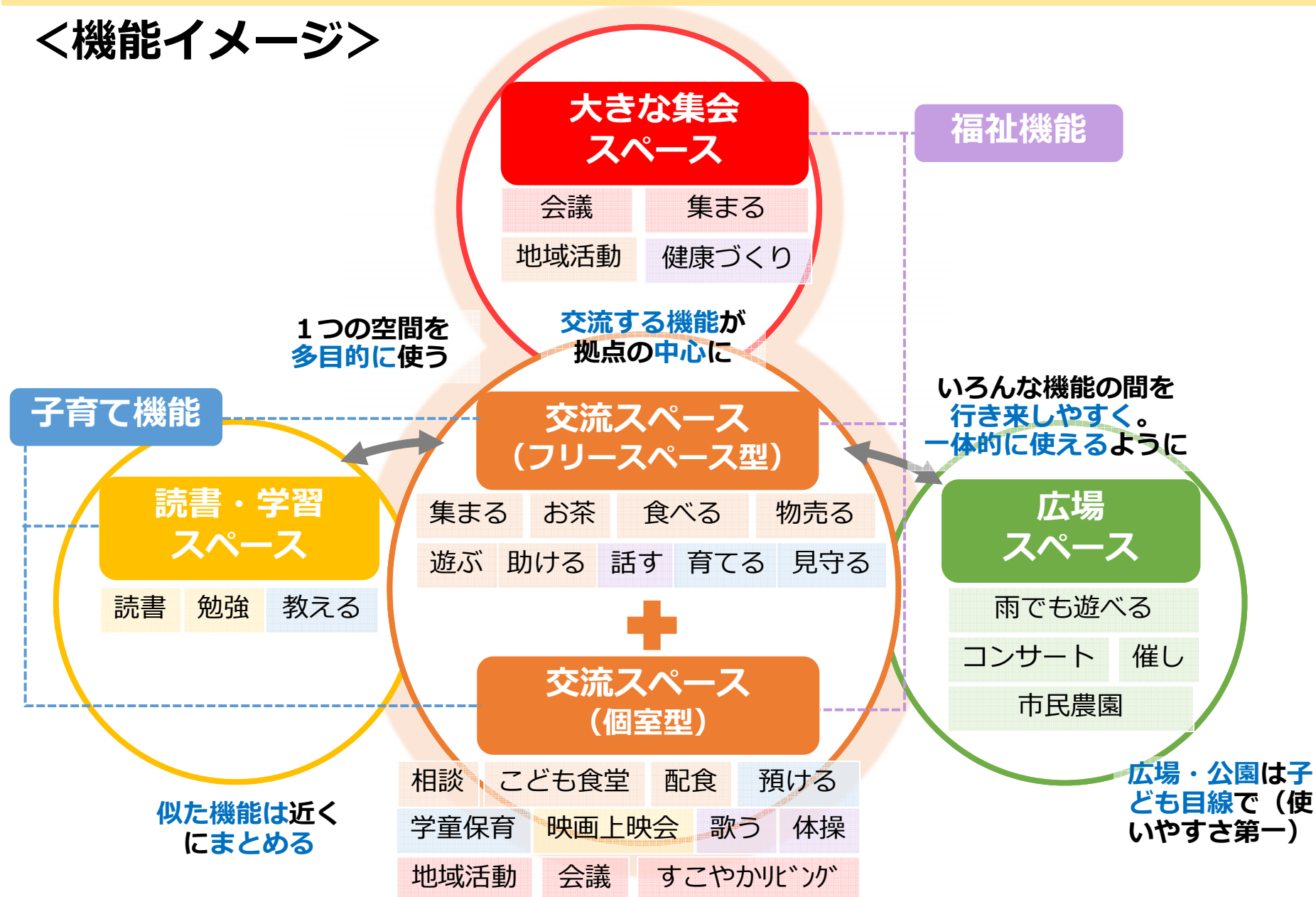
3つの「まとめ」から【多世代交流拠点】の要素を抽出すると...

<共通するつくり方のポイント>

- ① 似た機能は近くにまとめる
- ② 1つの空間を多目的に使う
- ③ 交流する機能が拠点の中心に
- ④ いろんな機能の間を行き来しやすく。
一体的に使えるように
- ⑤ 広場・公園は子ども目線で（使いやすさ第一）

4. 多世代交流拠点に入る機能のイメージ（各班まとめ）

＜機能イメージ＞

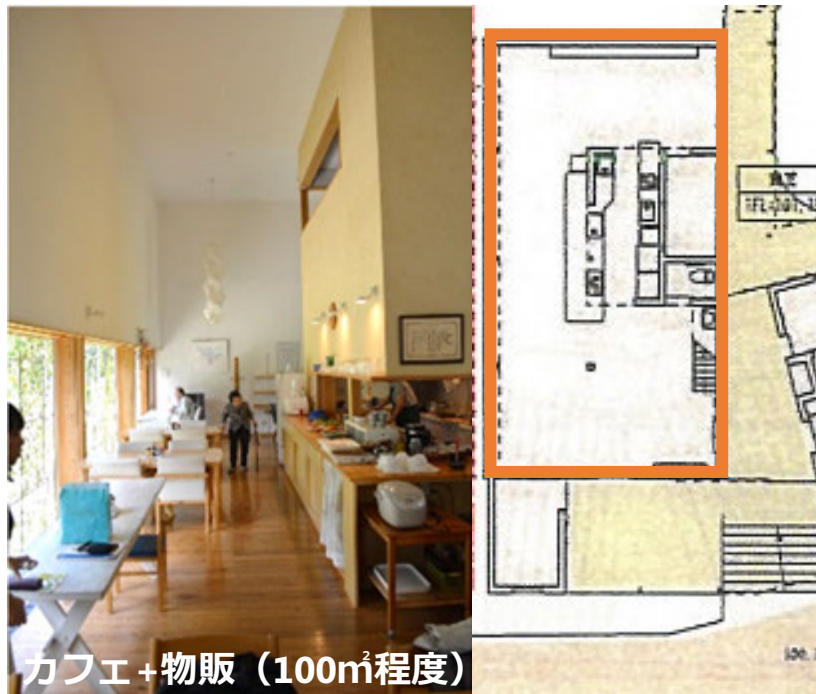


5. 多世代交流拠点の規模のイメージ

＜交流スペース＞

フリースペース型

- ・ カフェ・物販スペース $100\text{m}^2 \times 1 \text{ 室分} = 100\text{m}^2$
- ・ 多目的イベントスペース $100\text{m}^2 \times 1 \text{ 室分} = 100\text{m}^2$



5. 多世代交流拠点の規模のイメージ

＜交流スペース＞

フリースペース型

- ・ 子どもが遊べるスペース $100\text{m}^2 \times 2 \text{ 室分} = 200\text{m}^2$
(仕切れば大小さまざまな活動可能)



子どものスペース（わくわくランドたまかわ：230㎡）



親子スペース（母と子のふれあいひろば：120㎡）

5. 多世代交流拠点の規模のイメージ

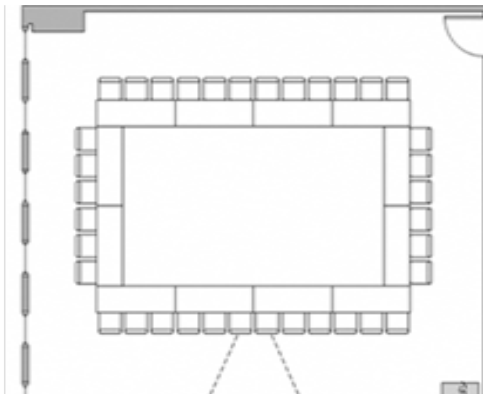
<交流スペース>

個室型

- ・ 活動・会議スペース $100\text{m}^2 \times 2 \text{ 室分} = 200\text{m}^2$
(仕切れば大小さまざまな活動可能)
- ・ 相談・憩いスペース $30\text{m}^2 \times 3 \text{ 室分} = 90\text{m}^2$

フリースペース型+個室スペース型を足すと...

700 m^2 程度



40人程度（車座）の会議スペース（100 m^2 程度）



相談・憩いスペース（30 m^2 程度）

5. 多世代交流拠点の規模のイメージ

<大きな集会スペース>

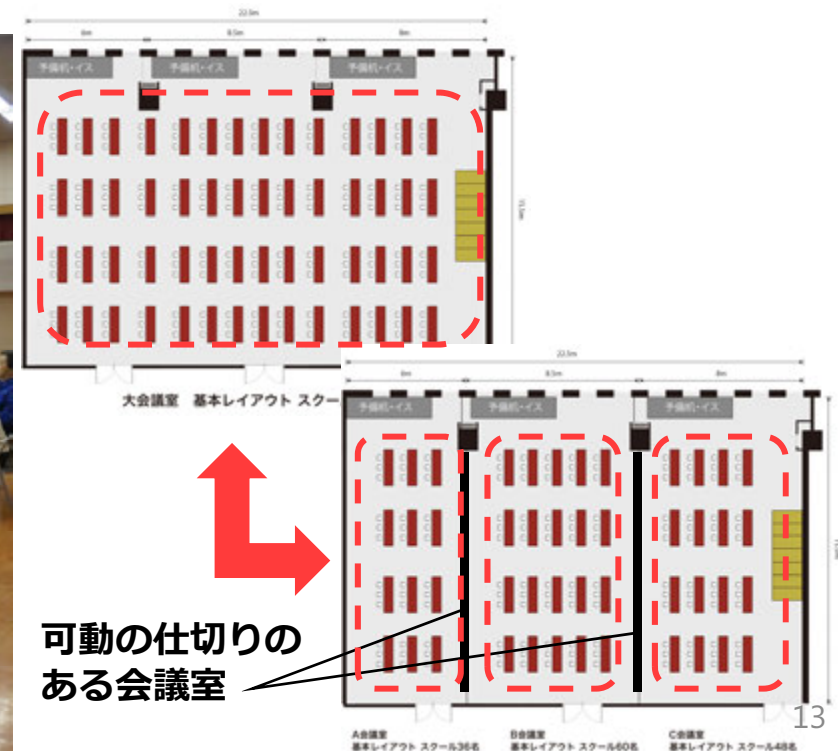
- ・ 大きな集会スペース $350\text{m}^2 \times 1 \text{ 室分} = 350\text{m}^2$
(仕切れば大小さまざまな活動可能)

350m²
程度

参考：人権文化センター大会議室：350m²



集会スペース（人権文化センター大会議室：350m²）



5. 多世代交流拠点の規模のイメージ

<読書・学習スペース>

・読書・学習スペース

$$300\text{m}^2 \times 1 \text{ 室分} = 300\text{m}^2$$

300m²
程度

参考：にじのとしょかん：290m²



読書スペース（上枠内で200m²程度）



学習スペース（上枠内で150m²程度）

5. 多世代交流拠点の規模のイメージ

<広場スペース>

- ・ 屋根付きの屋外スペース（公園とセット）

$80\text{m}^2 \times 1 \text{カ所} = 80\text{m}^2$

80m^2
程度



屋外スペース（屋根の場所で 80m^2 程度）

5. 多世代交流拠点の規模のイメージ

<その他>

・ 事務所・資料室

} 300～400m²
程度

参考：人権文化センター事務所：250m²
同上資料室：160m²

・ 共用スペース（廊下・トイレ等）

} 施設面積
の4割程

参考：富中校区の公共施設の共用部分面積：約4割

5. 多世代交流拠点の規模のイメージ

交流スペース

約700m²

大きな集会スペース

約350m²

読書・学習スペース

約300m²

事務所・資料室

約300-400m²

共用スペース

約1,100-1,200m²



広場スペース
(公園とセット)

約80m²



新たな多世代交流拠点

合計2,750~2,950m²

⇒大体 3,000m² 程度

6. 多世代交流拠点と今ある公共施設の関係

